

2026年7月1日

各位

会社名 株式会社大和証券グループ本社
代表者名 代表執行役社長 荻野 明彦

「気候関連レポート2026」発行のお知らせ

本日、株式会社大和証券グループ本社は、「気候関連レポート2026」を発行しましたことをご知らせいたします。様々なステークホルダーの皆様にご覧頂きやすいよう、今年度もレポート形式（PDF版）とウェブサイトの双方で開示しております。



気候関連レポート2026（PDF版）：

<https://www.daiwa-grp.jp/sustainability/environment/pdf/tcfd-report.pdf>

気候関連開示2026（サイト版）：

<https://www.daiwa-grp.jp/sustainability/environment/tcfd.html>

大和証券グループ

「気候関連レポート 2026」では、大和証券グループの気候変動対応に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標及び目標」についての情報を、体系的に開示しております。

今年度は、カーボンニュートラル達成に向けた移行計画に関する 2025 年度の取組み・進捗実績のほか、大和証券グループにとって、特に重要性のあるリスクや機会をより分かりやすく、ストーリー性を強化した上で開示を行っております。

(1) エグゼクティブ・サマリー

大和証券グループは、脱炭素社会の実現に向け、気候関連の情報開示を進めています。本レポートにおいては、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標及び目標」についての情報開示を行います。

ガバナンス	リスク管理
<p>監督</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動を含むサステナビリティに関する戦略及び方針については、取締役会が監督 取締役会には、サステナビリティに関する知見を有する取締役が在籍しており、取締役会規則に基づき、サステナビリティに関する戦略及び方針を含む経営の中期事項、ならびに取締役会が重要と認める事項について決定 サステナビリティ課題への取組みを一層推進するため、サステナビリティKPIを業績連動型報酬の評価体系に組み入れ、従業員のインセンティブを強化 <p>執行</p> <ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ推進委員会：代表執行役社長CEOを委員長とし、気候変動を含むサステナビリティに関する戦略及び方針について議論、執行役会での議論を経て、必要に応じて取締役会に報告 グループリスクマネジメント会議：代表執行役社長CEOを委員長とし、最高リスク管理責任者CROのもと、気候変動を含むリスク管理に関する方針及び施策について議論 グループ横断的WG：グループ横断的にサステナビリティを推進する体制として、サステナビリティ関連ビジネスの企画・実施、情報開示の拡充、ESG対応の強化等に関する各ワーキンググループ(WG)を設置 	<p>リスク管理態勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候関連リスクは、市場リスクや信用リスク等を増幅させる要因と捉え、既存のリスク管理の枠組みの中で考慮 リスクアセスメント・ステートメントにおいて、2021年度より気候変動リスクを取り上げ、適切に特定・評価し、効果的に管理 <p>環境・社会関連ポリシーフレームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境：社会リスク管理強化のため「環境・社会関連ポリシーフレームワーク」を策定し、新規の投資・引受における禁止/留意事項を定める 気候変動に影響する石炭火力発電事業、炭鉱採掘事業、石油・ガス開発事業、バイオマス発電事業等の対象となる案件に対しては、ESGデュエー・デリジェンスを実施し、投資判断の可否を判断
<p>戦略</p> <p>気候関連リスク及び機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動シナリオに基づく分析結果及び各事業部門へのヒアリングを通じて、気候関連リスク及び機会の評価・優先順位付けを実施 主なリスク：脱炭素社会への移行による投資・運用先等の業績悪化、異常気象や風水害等による取引先や当社事業所への物理的損害、気候変動による気候変動リスクの悪化 主な機会：サステナビリティを推進した投資先への価値向上、気候変動リスクの低減によるコスト削減、ESGに配慮した不動産・太陽光発電等のオルタナティブ提供等を推進・強化 再生エネルギーによるGHG排出量の削減や、ステークホルダーとの関係構築 <p>レジリエンス評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 当社グループが保有する資産等を対象に、シナリオ分析を通じて気候変動の戦略を実行することで、不確実性を低減しつつ、 	<p>指標及び目標</p> <p>サステナビリティKPI</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期経営計画「Passion for the Best」2026への策定にあわせて、2024年度に「GHG排出量(自社*)/投資ポートフォリオ*)」をサ

(2) 2025年度ハイライト※1 (グループKPI)

2030年度目標※1

ネットゼロ

自社のGHG排出量※2

2,270 t-CO₂e

2030年度
中間目標※1

186~225 g-CO₂e/kWh

投融資ポートフォリオのGHG排出量※3

230 g-CO₂e/kWh

2026年度目標

2位以内

SDGs関連債
リークテーパール※5

1位

※1 2026年3月末時点
 ※2 自社のGHG排出量はScope1+2の合計(マーケット基準)
 2026年6月時点での速報値であり、2026年8月頃に第三者保証を取得予定
 社用車の利用に伴う排出量を除く。これを含めた場合のScope1,2の合計は3,657t-CO₂e
 ※3 2024年度実績
 投融資ポートフォリオ排出量の対象は、電力セクターのプロジェクトファイナンス。一部設計値を含む
 ※4 2030年度目標
 ※5 [集計対象] 発行体のサステナビリティ戦略における文脈に即し、環境・社会課題解決を目的として発行される普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債 ※自社債除く
 [算定方法] LSEGデータ&アナリティクスのデータを基に大和証券作成

大和証券グループは、今後もステークホルダーの皆様と対話を重ねながら、気候変動への対応および情報開示の高度化に取り組んでまいります。

以上

(ご参考) 大和証券グループのサステナビリティに関する取組み：

https://www.daiwa-grp.jp/sustainability/?cid=ad_eir_sdgspress